

平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年8月9日

上場会社名 中日本興業株式会社 上場取引所 名
 コード番号 9643 URL <http://www.nakanihonkogyo.co.jp>
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）服部 徹
 問合せ先責任者（役職名）取締役 感動創造支援本部本部長（氏名）三田 則男（TEL）052-551-0274
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成29年3月期第1四半期の業績（平成28年4月1日～平成28年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	868	△2.7	5	△82.5	8	△71.1	5	△72.5
28年3月期第1四半期	892	—	28	—	30	—	19	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年3月期第1四半期	10.37		—					
28年3月期第1四半期	37.64		—					

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	5,012	3,706	74.0
28年3月期	4,801	3,733	77.8

（参考）自己資本 29年3月期第1四半期 3,706百万円 28年3月期 3,733百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	30.00	—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,000	2.7	84	△29.4	67	△44.9	98	20.4	184.54
通期	4,014	10.5	116	5.9	109	△2.7	124	77.2	233.50

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年3月期1Q	540,000株	28年3月期	540,000株
29年3月期1Q	8,943株	28年3月期	8,943株
29年3月期1Q	531,057株	28年3月期1Q	531,177株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢については改善傾向にあるものの、個人消費は消費マインドに足踏みがみられ、景気の停滞感が強まりました。また、円高や世界経済の下振れリスクもあり、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況の中、当社グループにおきましては、サービスの一層の充実を推進し、ご満足いただける映画・商品のご提供をすることで、お客様の「感動の創造」に努めてまいりました。

また、平成28年7月15日にミッドランドスクエアシネマ2がオープンすることに伴い、シネマ事業の効率化を図るためピカデリーを平成28年6月30日をもって閉館いたしました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は8億68百万円(前年同期比2.7%減)、営業利益は5百万円(前年同期比82.5%減)、経常利益は8百万円(前年同期比71.1%減)、四半期純利益は5百万円(前年同期比72.5%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

【シネマ事業】

シネマ事業におきましては、洋画では「バットマンVSスーパーマン ジャスティスの誕生」、邦画では「暗殺教室 卒業編」、アニメでは「ズートピア」「名探偵コナン 純黒の悪夢」等の話題作を上映いたしました。その結果、売上高は6億9百万円(前年同期比1.9%減)、セグメント利益は11百万円(前年同期比59.1%減)となりました。

【リラクゼーション事業】

リラクゼーション事業におきましては、地域に密着した運営を心掛け、イベント等も積極的に実施し、お客様に愛される施設運営に努めてまいりました。しかしながら、客単価の低下や競合施設の影響を受け、厳しい状況で推移しました。この結果、売上高は1億75百万円(前年同期比12.7%減)、セグメント損失は13百万円(前年同期はセグメント損失1百万円)となりました。

【アド事業】

アド事業におきましては、得意分野の映画宣伝や関連サイン工事に特化した営業展開を図り、安定的な収益の維持に努めてまいりました。この結果、売上高は82百万円(前年同期比19.6%増)、セグメント利益は6百万円(前年同期比156.7%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末の総資産は50億12百万円となり、前事業年度末に比べ2億11百万円の増加となりました。これは主に有形固定資産の増加によるものであります。

負債は13億5百万円となり、前事業年度末に比べ2億38百万円の増加となりました。これは主に流動負債の増加によるものであります。

純資産は37億6百万円となり、前事業年度末に比べ26百万円の減少となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年5月12日公表時から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

法人税等の納付税額の算定については、当会計年度の税金等調整前当期純損益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しています。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	525,587	611,704
受取手形及び売掛金	135,799	118,675
有価証券	400,002	100,000
商品及び製品	5,423	7,863
前払費用	28,308	42,221
預け金	61,711	47,896
繰延税金資産	9,814	9,814
その他	8,860	101,399
貸倒引当金	△969	△892
流動資産合計	1,174,537	1,038,682
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,721,911	1,687,332
構築物（純額）	51,122	48,241
機械装置及び運搬具（純額）	142,709	157,183
工具、器具及び備品（純額）	51,484	46,830
土地	669,168	669,168
建設仮勘定	5,644	288,345
有形固定資産合計	2,642,042	2,897,102
無形固定資産		
電話加入権	1,147	1,147
ソフトウェア	64,921	88,491
無形固定資産合計	66,069	89,638
投資その他の資産		
投資有価証券	276,740	253,046
関係会社株式	-	10,000
差入保証金	638,951	721,672
長期前払費用	2,722	2,274
投資その他の資産合計	918,414	986,992
固定資産合計	3,626,526	3,973,734
資産合計	4,801,063	5,012,417

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	243,932	260,850
1年内返済予定の長期借入金	87,896	55,097
リース債務	53,786	61,226
未払金	2,916	210,856
未払法人税等	39,340	6,442
未払消費税等	23,163	-
未払費用	56,428	66,765
従業員預り金	4,613	5,988
賞与引当金	14,450	7,797
その他	66,253	133,553
流動負債合計	592,781	808,577
固定負債		
リース債務	79,705	111,177
退職給付引当金	62,003	63,990
長期末払金	39,500	39,500
資産除去債務	55,037	55,352
受入保証金	199,476	195,378
繰延税金負債	38,752	31,542
固定負債合計	474,474	496,940
負債合計	1,067,256	1,305,518
純資産の部		
株主資本		
資本金	270,000	270,000
資本剰余金		
資本準備金	13	13
資本剰余金合計	13	13
利益剰余金		
利益準備金	67,500	67,500
その他利益剰余金		
配当準備積立金	345,979	330,047
別途積立金	2,380,000	2,380,000
繰越利益剰余金	605,784	611,291
利益剰余金合計	3,399,263	3,388,838
自己株式	△67,547	△67,547
株主資本合計	3,601,729	3,591,304
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	132,078	115,594
評価・換算差額等合計	132,078	115,594
純資産合計	3,733,807	3,706,898
負債純資産合計	4,801,063	5,012,417

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	892,119	868,273
売上原価	436,123	434,908
売上総利益	455,995	433,364
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	11,159	11,241
人件費	129,402	137,043
賞与引当金繰入額	7,407	7,797
退職給付費用	1,517	1,987
減価償却費	58,338	60,114
地代家賃	96,424	94,945
水道光熱費	46,178	38,335
修繕費	3,461	1,891
その他	73,403	74,992
販売費及び一般管理費合計	427,292	428,348
営業利益	28,703	5,015
営業外収益		
受取利息	105	80
受取配当金	2,522	2,744
協賛金収入	-	1,111
貸倒引当金戻入額	146	77
その他	521	475
営業外収益合計	3,295	4,488
営業外費用		
支払利息	923	340
その他	736	400
営業外費用合計	1,659	741
経常利益	30,339	8,762
税引前四半期純利益	30,339	8,762
法人税等	10,345	3,255
四半期純利益	19,993	5,507

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期損益 計算書計上額
	シネマ	リラクゼーシ ョン	アド	計		
売上高						
外部顧客への売上高	621,458	201,494	69,165	892,119	—	892,119
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	621,458	201,494	69,165	892,119	—	892,119
セグメント利益又は損失(△)	27,910	△1,929	2,722	28,703	—	28,703

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期損益 計算書計上額
	シネマ	リラクゼーシ ョン	アド	計		
売上高						
外部顧客への売上高	609,692	175,827	82,753	868,273	—	868,273
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	609,692	175,827	82,753	868,273	—	868,273
セグメント利益又は損失(△)	11,426	△13,397	6,986	5,015	—	5,015

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社は平成28年7月15日にミッドランドスクエアシネマ2(名古屋市中村区)がオープンすることに伴い、シネマ事業の効率化を図るためピカデリー(名古屋市中村区)を平成28年6月30日をもって閉鎖いたしました。

当該事業所の閉鎖に伴い、平成29年3月期第2四半期において97百万円の特別損失を計上する予定です。